

平成20年12月\*\*日

周南市長 島津幸男 様

徳山地区地域審議会  
会長 中村俊孝

### 新市建設計画の進捗状況に関する意見書

周南市政5周年という1つの節目を迎えた中、市におかれましては、まちづくり総合計画「ひと・輝きプラン 周南」に掲げられた将来の都市像「私たちが輝く元気発信都市 周南」に向けて、市民と一体となった協働によるまちづくりに取り組まれておりますことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

さて、合併前の旧2市2町の協議により策定されました新市建設計画の進捗状況について、市からご報告があったところですが、それについて、本審議会において審議を重ね、各委員の意見を集約したものを別紙のとおり意見書としてとりまとめました。

つきましては、平成22年度からスタートする後期基本計画に是非とも意見を反映していただき、今後の新市建設計画の推進にご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

新市建設計画の推進に向けて

# 新市建設計画の推進に向けて

平成20年12月

徳山地区地域審議会

## 1．新市建設計画の検証

市から提示のあった新市建設計画進捗状況調査によると、合併後5年間で、調査対象となる事業全体の約46%、徳山地区事業の約44%が、未着手や検討中などの進捗状況に止まり、合併後5年を経過した現時点において、進捗率としては遅れており、事業計画や財政計画と実績との間に大きな乖離が生じている。

乖離の主な原因

- ・報告書でも指摘されているように、三位一体の改革をはじめとした自治体を取り巻く環境が変化し、これにより財政状況が大きく変化したこと。
- ・新市建設計画以外の事業でも状況に応じて、先行実施したものがあること。
- ・事業計画自体が財政計画と必ずしも整合しないものになっていること。
- ・建設計画策定の当初から、計画の妥当性・合理性といった問題もあったのではないかと等

## 2．基本方針 - 事業の重点化、優先性の明確化

### (1) 今後の事業推進の基本的考え方

- ・現在の財政状況を踏まえ、今後は、より現実に即した形で新市建設計画を進めていくことが望ましい。特に、厳しい財政状況下においては、予算の中で、「あれもこれも」ではなく、「選択と集中」による身の丈に合った事業を実施していくことが重要である。
- ・計画掲載事業の中で、補助事業や合併特例債等の有利な財源を活用しながら、歳入に見合った形で事業を実施し、効率的かつ効果的な自治体経営とともに地域の特性を生かしたまちづくりを進めることが重要である。

### (2) 事業の重点化

- ・各事業が市全体や地域のために真に必要なかどうか（必要性・緊急性）、その事業規模が適切かどうか（妥当性）等について、事業を精査する必要がある。
- ・今後のまちづくりの方針を明確化し、事業の優先順位や予算配分の重点化を行う。

## 3．基本方針 - ソフト事業中心のまちづくり

景気の不透明感が一層増し、依然として厳しい財政状況の下、少ない経営資源で大きな効果を得るためには、従来のハード事業中心からソフト事業中心のまちづくりへと転換を図っていくことも必要である。

今後は、市民と行政のアイデアを結集した創造性のある施策を生み出してい

くことによって、中心市街地の活性化や地域特性を生かしたまちづくりを実現されることを期待するものである。

#### 4 . 基本方針 - 優先的に実施すべき事業

##### ( 1 ) 安心・安全に関わる事業

- ・ 学校施設の改築事業（体育館等）
- ・ 学校施設の耐震化事業（ 新市建設計画外の事業）
- ・ 通学路等の市道の安全確保、整備（身近な市道の整備）
- ・ 中山間地域等の周辺地域の生活道路の整備（市道、農道などの整備）

##### ( 2 ) 市中心部の整備に関わる事業

旧徳山市時代から市民が長年待ち望んでいるものであり、市全体への波及効果と市中心部の活性化が見込まれることから早期着工が望まれる。また、有利な財源である合併特例債の利用期限等を考慮しながら早期に着工し、合併効果を実感できるよう努めてもらいたい。

- ・ 徳山駅周辺整備事業  
（市の玄関口である徳山駅周辺の整備により中心市街地の活性化、市全体のイメージアップに繋がる）
- ・ 市役所新庁舎建設（災害、防災拠点としての庁舎の重要性）
- ・ 観光施設整備（徳山動物園リニューアル整備） 等  
（徳山駅から動物園までの動線の整備により、市中心部の中で新たな人の流れをつくる。）

本審議会としては、以上のような基本方針に基づいて、後期基本計画の中で新市建設計画を再構成し、新市のまちづくりを確実に推進されますようお願いしたい。